

陸上運動部部便り

2007年8月号

七大戦

目次

1	七大戦	1
1.1	監督の言葉	1
1.2	主将の言葉	2
1.3	女子主将の言葉	2
1.4	試合経過	3
1.5	試合結果	14
2	2007年度部内5傑 2007.7.29 現在	19
3	自己記録更新者一覧 2007.7.8~7.29	21
4	主務より	21
4.1	応援OB・OG紹介	21
4.2	行事予定	21
4.3	連絡先(慶弔等)	22

1 七大戦

1.1 監督の言葉

監督 寺田秋夫

男子5位と苦杯、女子6位ながら将来に繋がる
今年の七大戦は、京都西京極陸上競技場で開催され、男子は2連覇、女子は1,2年主体で今年は各自の専門種目で少しでも良いパフォーマンスを発揮し来年以降の飛躍の布石にしようというのが目標でした。

男子は5月以降、思うように本学のエースが伸びない中で、名大が力をつけ、簡単には勝てない状況になり、本学は4年を中心に少しでも得点の可能性の高い布陣とし、育成のための選手起用は無い編成で臨みました。

午前中に、複数名の入賞可能な3000mSC、1500m、走幅跳、110mHに掛持ちのエースを投入し、最初に勢いに乗って名大を突き崩す作戦

でした。第1種目の3000mSCで石原(4年)が力の違いを見せ付けて優勝し、よい滑り出しとなりますが、1500mが2,5位の7点、勝って当然の走幅跳が3名とも7mを越えられずまさかの3点に終わり、反対に名大は8点獲得で引き離されてしまいます。

その後も、自己記録更新の選手も数名出ますが、9位、7位が多く、110mHが0点に終わったところで優勝争いは万事窮してしまい、1,2点を積み上げに行った種目も、ことごとく入賞もれしてしまいます。それでも終盤で、「チームのムードを変えたかった」と、谷(2年)がやり投で自己新(62m08)で優勝、三段跳で5跳目まで下位にあえいでいた武安(3年)が最後の跳躍で1cm差で優勝を奪取(14m63)、5000mで松本(4年)が大混戦を制する(15'24"75)など、最後まで試合を投げ出さずにやってくれたことは救いです。

結果はトラック27点、フィールド21.5点の48.5点の5位に終わりました。優勝争いは下馬評通りの強さを見せた名大が83.5点と、投擲とデカスリート藤澤選手で稼ぎまくった東北(78.5点)を接戦ながらねじ伏せました。

名大は、私から見るとエースが数種目で取りこぼしているにも関わらず、2番手、3番手がバックアップし、優勝種目数は3つと少ないながら、複数入賞者の種目が多く、勢いの差を見せ付け、昨年の本学の状態を持っていかれた格好です。

本学は、選手数は他大学を圧倒するものの、結局、七大戦レベルでも確実に点を採れる層が薄いという欠点を露呈してしまいました。昨年勝ち、それなりに良い戦力バランスで今シーズンを迎えていたことが危機感の欠落になっていたかもしれません。七大学のレベルが上がっているかということ、優勝レベルは上がりつつあるものの、全日本インカレに出場する選手は各校1,2

名程度で、学生陸上界全体から見ればむしろ一昔前より相対的には低下しています。

そんな中で、トラックの得点種目は5種目のみで、しかも、400m(兵頭(1年)の3位)を除くと4年生による得点ばかり、また、複数名の入賞者を出せたのが3種目だけという状態で、今回、特殊事情で調子を合わせられなかった選手がいるのも事実ですが、エースが力を出せなかったり、2番手の力が足りないという深刻な課題が再燃し、来年に向けて相当のてこ入れが必要です。

他方、長い目で見てあげたいと思っていた女子は、日下(2年)の800m3位(2'21"29)で2点獲得に終わるものの、新人の清水(2年)が100mで決勝進出し、13"25の自己新、楠木(2年)も砲丸投でエイト入り、体が戻っていないものの高山(1年)が走幅跳で、エイトまであと4cmの結果を残し、リレーもバトンのレベルが上がれば得点可能なところにあり、課題を明確にして行けば来年にも10点は行けそうです。男子と逆に他大に比して圧倒的に少人数ですが、2年後までに長距離選手を入れられれば優勝を目指すチームにできそうです。

女子も名大が砲丸投以外の全種目で得点するバランスのよさで優勝し、平成7年の北大以来の12年ぶり史上2校目のアベック優勝を果たしています。

男女とも名大は卒業予定生が多く、来年はホスト校の東北が男女とも初優勝を狙ってくるでしょうし、本学も男女とも初心に戻ってやり直します。

今回は後塵を浴びせられた京大ですが、2校対校では伯仲する状況で、京大戦では卒業しなかった昨年のエース層をどう破っていくかで勝負の行方が決まりそうです。

遠路から応援に起こし頂いたOB・OGの皆様にも再度御礼申し上げます。

秋には元気の出る報告ができますよう、立て直して行きたいと思います。

1.2 主将の言葉

主将 倉員智瑛

昨年の総合優勝が夢だったかのごとく、今年の七大戦は総合5位という結果に終わりました。予

想外に力を発揮できない選手が生じる一方、予想以上に力を発揮する選手が現れないことが多かったです。このチームに底力が足りないとは思えません。ですが、それを活かすことができませんでした。この夏は底力を如何に結果に繋げるかということに全力をあげて取り組み、来る秋シーズンに備えようと思います。諸先輩方には変わらぬご声援をよろしくお願いいたします。

1.3 女子主将の言葉

女子主将 宮崎彩

今年の七大戦も炎天下、6人の選手で強豪校と戦う大会でした。これまでの女子部には各パートに選手が備わっていましたが、今年は短距離フィールドにほとんどの選手が偏り、非常に難しい展開になると考えました。そこで、これまで一人が何種目も兼ねていたのを辞め、専門種目に集中して大会に望むことを決めました。しかし、結果としては取得点数2点と非常に厳しい結果になりました。それぞれに色々と考え直す試合だったことと思います。ただ、今回2人の選手が自己ベストを更新したという大きな変化があり、それぞれに備えて挑んだ七大戦であったことが言えます。今後の課題としては、何が点数につながらなかったのかを一人一人が見直すこと、又自己ベストを出しても勝てない事を理解し、いかに勝っていけるかを考える事が、強い女子チームには欠かせません。今回の経験をもとに一人一人精進していきたいと思います。今回の七大戦には多くのOB、OGの方々がいらして下さり、有難うございました。わたくしごとですが、皆様のご声援が本当に嬉しく、精一杯頑張る事ができました。今後とも陸上部を見守って下さいますよう、お願い申し上げます。有難うございました。

1.4 試合経過

トラック

10:00 男子 3000mSC 決勝

石原(4年)、月崎(4年)の出場。石原は同種目で昨年2位。当然今年は優勝候補だが、昨年の2位から6位が残っており混戦が予想される。月崎も何とか入賞に絡みたい。今大会トラック最初の種目であり、今年の七大戦を占うレース、両選手に大きな期待がかかる。気温31℃、風も弱い中でのレースとなった。

スタート直後から川口(東北)が先頭に出て、少し離れた集団で石原、月崎が様子を窺う。石原、月崎は1000mを3'14"で通過。その後じわじわとペースが上がると月崎が苦しくなり少しずつ後退する。先頭集団は7人に絞られ、石原は集団中盤で勝負どころに備える。2000mを6'25"で通過後、近藤(京大)が前に出ると集団が崩れた。一時は先頭と石原との差が開き応援席を心配させたが、石原は落ち着いてその差を縮めラスト1周で近藤に追い付き、優勝争いはこの二人に絞られた。近藤はなかなか先頭を譲らなかったが、最後の水壕をうまく利用し石原が前に出ると、そのままスピードに乗って逃げ切り9'22"89の1位でゴールした。石原は後に控える1500mに備えて勝負にこだわった走りを見せ、最後の七大戦で見事念願の優勝を果たした。月崎は9'47"90の9位で入賞に絡めず悔しいレースとなったが、厳しいコンディションの中で自己ベストを更新し、4年生の意地を見せた。

石原の優勝で東大のスタンドは大いに盛り上がり、七大戦は最高の出だしとなった。



10:30 男子 400m 予選

1組7レーンに兵頭(1年)の出場。兵頭は1年生ながらも今季50秒を切る走りをしており、決勝進出が期待される。後半型の兵頭は、余裕を持ってスタートし200mを過ぎたところからギアチェンジ。次々に他の選手を抜き去りホームストレートでは5レーンの選手と二人抜け出す形となる。そのまま危なげの無い走りでも49"50の1着でゴール。決勝へとコマを進め、余裕のピースサインを見せてくれた。

2組4レーンに深澤(3年)の出場。勝つためにはなんとしても決勝に残らねばならない一戦、深澤も気合が入っており前半から積極的に攻める。そして300m過ぎたところを1位で抜け出す。このまま行くかと思われたが、前半のオーバーペースがたたり苦しい走りとなる。それでも350mまでは何とか耐えたが力及ばず51"10の5着でフィニッシュ。決勝進出を逃し、悔いの残る結果となった。

3組5レーンに梶岡(3年)の出場。梶岡も前半から積極的に攻め、第一曲走路、バックストレートと順調に駆け出した。しかし250mを過ぎたあたりから徐々に遅れ始め、最後のストレートも伸びず51"54の4着で残念ながら決勝進出を逃した。

梶岡、深澤は決勝進出を惜しくも逃してしましたが、この悔しさはこの後

の4×400mRで晴らしてほしいと思う。

10:55 男子110mH 予選

1組5レーンに尾崎(3年)の出場。尾崎は短距離パートの得点源であり、この七大戦でも、彼の得点は優勝への最低条件で、そこからプラスアルファでとれただけ短距離で稼げるか、という点が重要だった。そのような意味でも、この予選は無難に勝ち抜くことが望まれる。スタートに際して、機器の不具合であろうか、一度仕切り直しが行われた。とはいえ、これは陸上にはよくあるハプニングであるし、経験豊富な尾崎に影響はないと信じたいところ。仕切りなおしたスタートでは、やや3レーンの選手に先譲ったが、すぐに追い抜き、単独1位に。後半、5レーンの選手にやや差を縮められるが、軽やかな加速でかわし、後半を余力を残して、15"32の1着でゴール。この時の風は-2.3mであった。余力を残しての理想的な予選となった。

2組4レーンに増本(1年)の出場。ハードル種目は、尾崎を除くとなかなか得点へと絡むことは難しいかと思われるが、好戦を期待したい。しかし、2台ほど跳んだところでハードルに接触してしまい、大きくバランスを崩してしまった。あとはズルズルと走りを立て直すことも出来ず、徐々に前との差が広がり、増本は17"25の6着でゴール。このときの風は-1.0mであった。

3組7レーンに堀内(3年)の出場。膝を痛めていたのがやや気になるが、勝負に絡める事を期待したい。スタートは少し焦って、上体を起こすのが早かったか、周りより1歩出遅れる形になってしまう。更に追い撃ちをかけるように、2台目でハードリングミスをしてしまい走りが大きく乱れた。6台目を跳んだ辺りで走りを立て直すことに成功し、そこからは普段どおりの走りが出来たが、その頃には前との差は

大きく開き過ぎていた。結果、18"97の4着でゴール。この時の風は-1.4mだった。

増本・堀内に関しては、対校戦の経験を積んで、今後の大会での活躍に期待したい。

11:20 女子100m 予選

1組6レーンに清水(2年)の出場。決勝進出という良い形で女子選手の先陣を切りたい。1組目は他選手のフライングがあり、仕切り直しになったが、清水は影響されることなく、いつも通り良いスタートを決める。懸命に力のある他大の選手の後を追い、抜くことはできなかったが、粘り強く走り、13"68の5着でフィニッシュ。このとき風は-0.7mであった。

2組4レーンに大久保(2年)の出場。7月中は体調を崩してしまい思うように練習が積めなかったが、直前に持ち直し今大会では100m,4×100mRに臨む。大久保も良いスタートをきるが、向かい風の影響を受けたのか、いつもよりスピードが伸びず、14"17の4着でフィニッシュ。このときの風は-2.2mであった。

結局、清水がプラス通過で決勝に駒を進めた。大久保は残念ながら予選落ちとなってしまった。

11:30 男子100m 予選

1組6レーンに藤本(4年)の出場。四大戦、およびその1週間後の兵庫県選手権で自己ベストを立て続けに出すなど本大会に向け調子を上げてきており期待がかかる。スタートはまずまず決まったと言えたが、そこから大きな伸びがみられず、11"32の5着でゴール。このとき風は-1.4mであった。

2組3レーンに福田(3年)の出場。スタートから出遅れてしまい、前を追う展開になる。しかし、遅れを取り戻そうとするも、逆に硬い走りとなってしまっており追いつけず、11"49の6着でフィ

ニッシュした。このとき風は-1.9mであった。

3組8レーンに田中(4年)の出場。スタートはうまく決まったのだが、他の選手に徐々に離されてしまい、後半でも巻き返せず、11"45の6着でゴールした。このときの風は、-1.0mであった。

3人とも決勝進出を逃してしまい、向かい風であったとはいえ、タイムから見ても不本意な結果に終わってしまった。今年は昨年に比べレベルの高いレースではあったが、その中で他大学の選手と対等に渡り合うために、短距離全体のレベルアップが必要だと思われる。

11:50 男子1500m 決勝

石原(4年)、斉藤(4年)、松本(4年)の出場。試合前の下馬評でランク1位の石原、また昨年の七大戦で2、3位を占めた松本、斉藤の出場とあって高得点が予想され、応援席の期待も大いに高まった。

スタートラインに選手が並び、緊張が走る。号砲とともに勢い良く飛び出し集団の前方に松本、斉藤が位置する。一方直前に行われた3000mSCで優勝してみせた石原は無理をせず最後尾から徐々に集団の前のほうに上がっていく。400mを65"、800mを2'12"とスローに消化しただけに後半のペースアップが勝負の要諦になるのは必至であった。松本は3番手の好位置でレースを進めるが、石原はスローペースで集団がなかなかばらけず位置取りに苦労する。1000mをこえた辺りから集団は一気にペースアップ、松本はこれに冷静に対応し残り300mから鋭いスパートをみせる。先頭で最後の直線に駆け込み優勝をほぼ手中に収めたかに思われたが、残り50mを切ったところで力を残していた京大のルーキー小山に抜かれ、惜しくも3'59"79の2位であった。斉藤、石原は先頭の400mを58秒台でカバーするスパートに対応できず

それぞれ4'03"12で5位、4'07"22で9位であった。

この結果東大は七大学中最高の7点を取ったが、期待通りの結果とはいえなかった。

12:10 男子400m 決勝

4レーンに兵頭(1年)の出場。天気予報では曇りの予報であったが、気温33℃、炎天下の暑い中でのレースとなった。持ちタイムでは十分優勝できる実力があり、名大の牧との一騎打ちが予想された。

前半、兵頭は落ち着いた走りでも横一線のレースを繰り広げる。そしていつも通り200m過ぎからスピードを上げる。しかし、今回はいつものような伸びのある走りが見られず、ホームストレートに2位で入ったものの苦しいレース展開となる。ラスト50mで後続の選手に追い上げられ、最後に何とか粘るも49"93の3位に終わった。

今回のレースでは、兵頭の体力不足が如実に出てしまう結果となった。まだ1年であり練習を再開してから4ヶ月であることを考えると仕方ないかもしれない。受験期のブランクが大きな足枷となってしまったようだ。しかしこの後、4×400mRも控えているので、そこでの走りに期待したい。

12:25 男子110mH 決勝

4レーンに尾崎(3年)の出場。尾崎は得点源であり、本大会でも他に走幅跳にも出場しており、多種目出場で負担は大きかった。四大戦以降はその調子にいくらか危険な雰囲気を持っていたが、予選ではそんな不安を払拭させてくれる良い走りをした。決勝にも期待は高まる。

スタートでは、予選に続いてまたしても仕切り直しがあった。集中力が途切れない事を祈るが、それも含めての実力である。仕切りなおしてスタート。全員がきれいに揃った。接戦である。

しかし、尾崎が伸びてこない。むしろ周りが更に加速する中で中盤から徐々に順位を下げていく。そのまま追上げる事もできずに尾崎は15"58の7位でゴール。この時の風は-1.5mであった。

得点が期待されていただけに残念な結果となった。大きなミスがあったわけではなかった。多種目出場がたたったのであろうか。今回の失敗を踏まえて、是非、残る京大戦や一橋戦では本来の実力を発揮し、大量得点を期待したい。

13:05 女子800m 決勝

2レーンに日下(2年)の出場。今回の試合では北大の只野が全日本インカレで準決勝に進出するなど実力がぬきんでおり、日下は格上の名大の選手と争って2位をとると宣言していた。

気温が34と暑い中のスタート。セパレートではなく、オープンでのスタート。スタートが内側であったが、最初から後方集団にポケットされずにうまいスタートを見せ、3番手につけた。実力者である北大の只野がはじめからレースを引っ張る中、名大の選手と10mくらいの距離を保ったままバックストレートを走るが、300m付近で追いつき、400mで積極的に前に出て、そのまま逆に10mくらいの差をつけた。400mの通過は68"であった。だが、ラスト100mで追いつかれ、相手のラストスパートに対応できず、逆に10mくらいの差をつけられ2'21"29の3位でゴールした。

東大はこの種目で2点を獲得。最終的にラストで抜かれてしまったが、400mで格上である名大の選手を抜くなど積極的なレースを展開した。



13:10 男子800m 予選

1組目に坂井(2年)の出場。坂井にとってはなかなか厳しい組合せだったが、自己ベストを出しての決勝進出が望まれた。ペースははっきりとしたスローペースになり、200mを30"で通過。じれた坂井が先頭に上がるもののペースは上がらず、400mを62"で通過する。残り300mになったところで、集団は一気にペースアップ。坂井も必死に喰らいつこうとするが、差は徐々に広がっていく。2'04"71の5着でフィニッシュ。不完全燃焼なレースであった。

2組目に野村(2年)の出場。最近の不調から脱する光明が見えたと言っており、いい結果が期待された。この組は最初からハイペースの展開。野村は後方からスタートし、いつもどおり後ろから刺す作戦かと思われた。だが、なかなか集団との差が縮まらない。残り300mを過ぎた時点で心なしか差が開いている気がした。結局差は詰まることなく、2'00"42の7着でゴール。完敗であった。

3組目に斉藤(4年)の出場。前の二人が決勝進出を逃しただけに、なんととしても斉藤には決勝に行ってもらいたいところ。斉藤は集団の3,4番手につけて前をうかがう格好となる。400mを60"で通過。残り300mを過ぎたあたりからペースが上がり、斉藤は一人を

抜かして外側に出て、いつ飛び出してもいい態勢をとる。残り100m付近でスパートを掛けて、最後は余裕を持ってフィニッシュ。2'00"05の2着で、2時間後の決勝に進出した。

13:30 男子400mH 予選

1組8レーンに酒谷(1年)の出場。前半から積極的なレース運びで5台目までは2番手の好位置につける。しかし、6台目以降は逆足が続く厳しい展開。そのまま順位を落とし、57"68の4着でフィニッシュ。大学入学後のベスト記録ではあったが、自己ベストが出せれば決勝進出も見えてくる組だっただけに残念であった。しかし、今後の試合に期待の持てるレースではあった。

2組7レーンに伊勢田(5年)の出場。前半から果敢に飛ばしていき、先頭争いを演じる。しかし、試合直前に体調を崩していたこともあり、後半は失速。最終的には58"21の5着でフィニッシュ。持ちタイムから見て決勝進出の可能性が大いにあったことを考えると、残念な結果に終わってしまった。

3組2レーンに門脇(3年)の出場。前半は3レーンを走る54秒0台の記録を持つ選手についていく攻めのレース。しかし、200mを過ぎた辺りから疲れが見え始める。ホームストレートに入ってからは一気にスピードが落ち、ハードルに足をあてるなど、大きく走りが乱れた。結果的に60"45の5着でフィニッシュした。

残念ながら決勝進出者はいなかった。今後の対校戦ではさらなる奮起が期待される。

14:00 男子200m 予選

1組8レーンに今村(4年)の出場。良いスタートを切り加速するも、第4曲走路に入ったところで思うようにスピードに乗れず、インコースの選手にリードを許す。ストレートに入った時点で既に前方の集団とはわずかに差を付けられてしまう。後半の100mもい

つものような力強い走りは見られず、スピードに乗り切れない。22"77の5着でフィニッシュ。このとき風は-0.2mであった。22"5~6台の安定した走りが身に付いていた今村だが、七大会の舞台でその自己記録を更新することはできなかった。

2組3レーンに柴田(2年)の出場。スタートから出遅れ、第3曲走路を出る所で2レーンの選手に追いつかれてしまう。コーナーを抜けた時点で5番手の選手に引き離されてしまうも、粘り強い走りを見せスピードは安定したまま23"74の6着でゴール。このとき風は-0.7mであった。200mの人材が少ないという現状の中、柴田の躍進に期待がかかる。

今村、柴田の両選手は決勝の進出はならなかった。200mを全力で走り切り、高レベルな戦いを勝ち抜いていくため、一層の努力が求められる。

14:20 女子100m 決勝

2レーンに清水(2年)の出場。他大と競り合うには不利な2レーンとなってしまったが、食らいついてなんとか1点でも獲得してほしいところ。機械の不調のため、時間を置いての再レースとなった女子100m決勝であるが、清水には心身ともに切り替えて得点を狙ってほしい。

再レースは1回目の号砲できれいにスタート。やはりプラス通過で決勝進出を果たした清水は他選手に引き離されていく。しかし、予選で見せた粘り強さを決勝の舞台でも発揮し、なんとか13"25の6位でフィニッシュ。このときの風は+2.0mであった。

点数を獲得することはできなかったものの、炎天下での再レースで自己ベストを出したということは賞賛に値する。来年は12秒台のタイムで点数が取れる4位以内を目指してほしい。

14:30 女子3000m 決勝

日下(2年)の出場。800mの後であり、気温も高いため、苦しいレースになると予想された。

スタートするとまず集団の後ろ寄りにつけ、1周目は85"の9番手で通過。この時点で前とは少し差が開いてしまう。2'55"で800mを通過すると前の単独で走っている選手との差を徐々につめていき、1200m付近で追いつく。1300m付近でかわすが、その前とは差が大きく、一人旅になる。前との差は詰まらず、逆に2000mでは80mほどの差だったのが、2500mでは100mほどの差に広がってしまう。1000mごとのラップは、3'39"-3'49"-3'48"だった。一人途中棄権者が出たため、11'16"47の7位でゴール。

800mに力を入れていたこともあり、今回は得点に絡むことはできなかった。しかし、そうした厳しい状況下でも9,10位の京大の選手には勝っているため、京大戦での活躍が期待されるだろう。

14:50 男子4×100m 決勝

3レーンに今村(4年)-藤本(4年)-福田(3年)-都井(2年)の走順で出場。100mで全員予選落ちをしてしまった男子4継ではあるが、2年都井は昨日の100mOPで自己ベストを更新しており、本リレーでは上位を狙って行きたいところであった。個々人の力は決して昨年3位に入ったチームと比べても見劣りしないので優勝を狙う力は持っている。

1走今村は得意のスタートで飛び出す。順調に加速をしていくが、周りと差を着けるまでには至らずバトンをつなぐ。しかし、ここで詰まってしまった。2走藤本は最近調子がよくここでタイムを縮める事が期待された。だが、100m決勝進出者達との争いは熾烈でなかなか前方との差をつめることは出来ない。3走福田へはミス無くバトンをつなぎ、福田も懸命の走りを見せるが

順位に変動はなし。そのままアンカー都井へとつなぐ。この時点で3位までとは差がついてしまっていた。都井はひとつでも前へと追い上げようとするがその差を詰めることは難しく逆に後方から北大にかわされ42"86の7位でゴール。

短距離一同、そして部員全員が勝利を期待していたリレーであったが残念な結果に終わってしまった。メンバーの力的にはまだまだ上のタイムを狙えるはずだが、上手くいっていない。京大戦までになにか欠けているものをしっかり見極め、修正していかねば京大に勝つのも厳しいのではないだろうか。

15:30 男子800m 決勝

2レーンに斉藤(4年)の出場。この日3本目となるレースであったが、ここはしっかり得点を取っておきたいところ。

オープンレーンとなった時点で、前に4人の集団があり、斉藤はやや離れてその後ろにつく。そのままの状態では400mを60"で通過する。バックストレートに入って、斉藤が動く。だが、先頭のペースも上がっておりその差はなかなか詰まらない。ホームストレートに入ってさらに先頭はペースが上がる。4番手と斉藤の差はほとんど詰まっていない。斉藤も必死に前を追うが、捉えることができず1'59"62の5位でフィニッシュ。

最初から前についていれば、もしかしたらと一瞬考えてしまう展開であった。

15:50 男子5000m 決勝

松本(4年)、梶井(3年)、竹俣(1年)の出場。エースの松本はこの種目で2連覇がかかり、また午前に行われた1500mでは2位に甘んじているので絶対に勝たなければならないレース。梶井は1ヶ月前の怪我の影響で調整が十分でなく苦戦が予想された。竹俣は1年生で初の対校戦手だが、持ちタイム

が15'20"49と、もともと実力のある選手であり、入学以来レースの度に大学ベストを更新してきており、今回もその勢いに乗って勝負してほしい。

レースは33 という暑さのため、序盤はスローペースで1000mの通過も3'11"。東大の3選手は松本が集団の中盤、梶井と竹俣は集団の後方に付いていく。以降3000mまでの先頭のラップタイムは3'12-3'13"とスローペースが続いたが3000m過ぎに山崎(北大)が仕掛けると集団は一気に縦長となった。3000mから4000mのラップが3'02"と一気に上がると先頭集団は松本を含めた4人に絞られるが松本は最後の1周でも相手を揺さぶるなど余裕を持ちながら最後の400mを63"で駆け抜け15'24"75の1位でゴールした。松本はこの種目で2連覇を達成し、1500mと合わせて11点を獲得し、最後の七大戦を有終の美で飾った。竹俣は急なペースアップに付いていけなかったが何とか粘り、15'59"07の10位。この経験を糧にしてやがてはエースとして対校戦などでの活躍を期待したい。梶井は調整不足の影響で2400m辺りから遅れ、16'14"64の17位に終わったが、試合後の彼の悔しさは相当なもので、この雪辱は必ずや今後の大会で晴らしてくれるはずだ。

長距離パートとしては石原の3000mSCと合わせて長距離2種目を制し、松本、石原、斎藤の4年生トリオで21点獲得し、最低限の仕事を果たした。



16:20 女子4×100m 決勝

3レーンに大久保(2年)-清水(2年)-宮崎(4年)-高山(1年)の走順で出場。女子4継は、清水が100mで決勝に進んでおり、大久保も決勝レベルの力はあるので期待が持てる。

1走大久保は少々スタートで出遅れるも後半伸びの良い加速でバトンをつなぐ。2走清水は今日100m決勝に進んだその力を発揮し、鋭い走り見せ前方を追いかける。しかし、この時点で名大と北大のエースが圧倒的なスピードで後続を離す。しかし清水は自分の走りを見失わずバトンを3走宮崎につなぎ、宮崎は京大・阪大と接戦を繰り広げるがその差は変わらずバトンをアンカーに託す。4走高山は京大との勝負になる。だが、京大に徐々に離されてしまい、最後まで粘るも53"50の5位でゴール。

惜しくも点には届かなかったが接戦でしっかりと粘れたのは良かった。これからの夏にしっかり練習を積みバトン技術・走力共に向上させれば、十分京大戦での勝利が見えてくるだろう。

16:30 男子4×400m 決勝

8レーンに深澤(2年)-梶岡(3年)-小

澤(4年)-兵頭(1年)の走順で出場。ここまで唯一短距離で得点を獲得している期待の1年兵頭(400m3位)をアンカーに据え、400mでは決勝進出を果せず奮起を誓う深澤・梶岡、そしてチーフとして短距離を引っ張って来た小澤の3人を加えた4人が最終種目であるこのマイルリレーに挑む。ランキングだけを見れば5番であったが、本日の炎天下に他の選手がどれだけ疲労しているかわからないこともあり、最高に盛り上がる応援を力に変えて、1つでも上の順位を目指してほしい。

1走深澤は、他の選手の見えない8レーンながらスタートから自分の走りをする事ができ、ラストの直線でも粘りを見せて良い位置でバトンをつなぐ。2走梶岡は、バックストレートで上位を狙う姿勢を見せたが、周りも強く4番手で前半を折り返し、後半の激しい順位争いの中6番手で帰ってくる。3走小澤は前半から果敢に攻め5番手を走るも、200m過ぎで7番まで順位を落としてしまう。しかし前に離されることはなく最後は追い上げる形でバトンをつなぎアンカー勝負となる。4走兵頭は一番後ろに付きながらも前半は飛ばすことなく落ち着いた走りを見せる。そしてラスト200mを過ぎた辺りから皆の期待に応えるようにスピードにのり、1人をおかわし、ホームストレートでも1人をおかわして3'21"14(50"6-50"6-50"3-49"5)の5位でゴールした。

レース後倒れている選手が多かったことからわかるように暑く厳しい戦いだった。そんな中シーズンベストを出せたことはチームがまとまっていた証拠だろう。ただ、優勝タイムが低く、もう少しで上位争いに食い込めていたことを考えれば悔しさの残る結果でもあった。シーズン後半、そして来シーズンへ今回の結果をどうつなげていけるのか。まずはこの夏のより一層の奮起に期待したい。

フィールド

10:00 男子円盤投 決勝

庄司(4年)、小林(4年)、谷(2年)の出場。投擲最初の競技はサブトラックで開始された。

谷は練習投擲を十分に利用しフォームを調整、1投目に自己ベストの28m94を残す。記録を伸ばそうと投擲を続けるが、安定しない回転でさらなる記録更新には至らず、11位で競技を終えた。小林は公式練習で30mのライン上に跡をつけるものの、ファールを恐れてか回転が崩れ、3投目に投げた29m55の記録で10位となる。庄司はうまく円盤を押しきる投擲で、2投目に29m91を投げる。しかし上体が回りきらず右に円盤が逸れてしまい、3投目はファール。8位で通過し4投目以降の試技を続けるが、4投目も有効範囲に落ちない。5投目に30m04を投げ記録を伸ばすが順位はあげることができず、結局6投目も失敗に終わり、そのまま競技終了となった。

得点が取れた5位、6位の京大勢の記録はともに32mであった。東大も3人ともにベスト8に残る可能性があり、また少しのベスト更新で得点を得るチャンスもあった。今後は試合において自己ベストを投げられるような勝負強さが求められよう。

10:20 男子棒高跳 決勝

木村(4年)、大谷(3年)、原(1年)の出場。前日まで心配された天気もち、晴天の中行われた。しかし西京極競技場特有の舞う風のため、難しいコンディションであった。原は2m60、木村は3m20、大谷は3m80から試技を開始した。

混成競技を志望する1年生の原は初めての棒高跳の試合。最初の高さである2m60から挑戦した。初めてゆえの緊張と準備不足もあり、なかなか練習通りにいかない。幾度か惜しい跳躍を

見せるも、最初の高さをクリアできず、記録なしに終わった。木村は安全策を取り、3m20から試技を開始する。公式練習まではよい動きを見せるも、待ち時間が長く微調整がうまくいかなかったためか、思うように踏切の押し込みが出来ない。本来ならすんなり跳ぶべき高さから開始したはずが、それが裏目に出る。まさかの記録なしに終わった。その後風向きが悪かったため、3m60からマットの向きが変更され、また3m80にバーが上がったところからバー止めの付け替えが行われた。大谷は今期、怪我や学業との兼ね合いなどでうまく練習が積めていなかったものの、8年間の経験を生かし、うまくピークを合わせてきた。3m80から試技を開始。最初から勝負ポールを使い、果敢に攻める。特に4m00の二回目では今までに無い良い感覚を掴んだようで、素晴らしい高さを得ていた。その後、4m20をクリアした選手は大谷を含め3名いたが、大谷以外は一発クリアだったため、他の2名が4m30をパスする中、勝負をかけて4m30にバーをあげる。方向の一定しない風が治まるのを待つ一方で、暑さに体力が奪われ、徐々に助走に精彩を欠いていく。最後の一本はしっかりと風を待ち、集中して挑んだもののクリアならず。記録4m20であった。

大谷が3位に入ったものの、4点を獲得したにとどまってしまった。ジャンプ競技最初の種目で、もっと大きな得点が望まれていただけに、チームの勢いを削ぐ結果となってしまった。3人には、合宿を経て京大戦でのリベンジ、更には自己ベストの更新に期待したい。

11:20 男子走幅跳 決勝

尾崎(3年)、武安(3年)、廣瀬(2年)の出場。11時の時点で気温が32あり、京都特有の厳しい暑さの中で競技が開始された。ランキングでは尾崎が

1位、武安は3位であり二人には上位入賞をして、確実に得点を取ることが期待される。また、廣瀬も8位に位置しており廣瀬が得点を取るかどうかが総合優勝争いに影響を与えると考えられる。

廣瀬は1跳目の跳躍で、6m57とまずまずの記録。尾崎は踏切板に足が合わず、6m84と思うように記録が出ない。武安は6m93とこれ以降の試技に大きな期待を抱かせる。2跳目は記録を伸ばせず、3跳目。廣瀬は+1.7mの追い風を受けるも6m42で、結局9位で競技を終える。ベスト8には残れなかったが、この悔しさをいかして今後の対校戦で活躍してほしい。尾崎も3跳目は記録を伸ばせないが、6位で4跳目以降の試技に挑む。武安は3跳目に助走の勢いに乗って、6m99の跳躍。3位で決勝に進出。4跳目、尾崎はパス、武安はファール。5跳目はともに記録を伸ばせず、6跳目。尾崎は強い追い風が吹いていたが最後まで記録を伸ばせず6m81。結果は6m84の6位であった。武安は手拍子を求めて大ジャンプをしたかに思えたが、ファール。6m99の5位で競技終了。東大は3点を獲得したが、名大が9点を獲得し大きく水をあげられてしまった。

昨年は15点を獲得し、今年も高得点を狙えた種目であったが力を出し切れないままに終わってしまった。今後の対校戦では確実に高得点をとる勝負強さが求められるだろう。

11:30 男子砲丸投 決勝

庄司(4年)、小林(4年)、北川(3年)の出場。サブトラックで行われていた円盤投の競技者が揃いきらないまま公式練習が始まり、慌ただしい競技開始となった。

北川は砲丸投が当日最初の競技であり、万全の準備で臨んだ。1投目に11mラインを大きく越えたところに跡を残すが、上体が前に出すぎファール。続

く2投目は10m37を残しこの時点で9位となる。3投目に大きな動きで順位を上げようとするが、バランスを崩し前に飛び出してしまいファールとなった。10位に終わる。庄司は円盤を6投した直後の疲れからか、練習投擲で体がうまく前に回りきらない。3投の間に修正を試みるものの、すべてファールとなり、記録なしで競技を終えた。小林は軸の安定しない投擲で2投目まで9m台の投擲にとどまった。後のない3投目はファールしたかと思われたが、新ルールに助けられ10m65の記録が残り、辛くも7位で前半を折り返す。得点圏内である6位以上の選手は11m前半に集中しており、それに追いつこうと4投目以降の試技を続ける。体の調子は良く、5投目に自己ベストである10m84を投げるが、上位まであと一歩及ばず順位を伸ばすことができない。6投目も11m付近に砲丸が落ちたが、大幅な記録更新とはならず、結局10m84の7位で競技を終えた。

この種目得点が十分可能な範囲であったにもかかわらず結局0位に終わる結果となった。京大戦に向けては、この結果を重く受けとめ各人の奮起を期待したいところである。

13:00 男子やり投 決勝

関原(4年)、北川(3年)、谷(2年)の出場。

今シーズン60m50の記録を持つ谷は1投目から57m台を投げ、この時点で優勝を確実なものとする。そして2投目、これまでになく早い助走から投げ出された槍は60mラインを大きく超え、大会記録にあと62cmにせまる62m08の大投擲となった。これ以降記録は伸ばせなかったが、有効試技のすべてで2位記録を上回る圧勝で7大会初優勝を飾った。昨年度2位の北川は3投目で51mを超え、6位でベスト8に進んだ。しかし京大の2人をとらえることはできず、51m34で6位となった。

右足に不安を抱え1投目に全てをかける関原は、その1投目が48m69の失敗に終わり、以降の投擲でも見せ場なく1投目の記録のまま8位に終わった。

この種目では大量得点が期待されたが、京大・名大の思わぬ躍進により7点にとどまる結果となった。京大戦に向けては谷以外の2人が今回入賞した京大の2人を倒せるかが鍵となろう。

13:10 男子走高跳 決勝

倉員(4年)、小福田(3年)、荒井(2年)の出場。この種目は記録が拮抗しており、1m80を1跳目でクリアすればかなりの点数が獲得できるところであった。ここでより多くの点数を獲得し、ムードを引き戻したいところである。荒井は今年部に入ったばかりで、陸上も未経験、しっかりとした跳躍練習もあまり行えなかったが、経験を積むということで今回初めての対校戦出場となった。

荒井は1m50から試技を開始した。1跳目は踏切ができておらず体が浮かずに失敗。2跳目は何とか成功する。次は1m55に臨むが、まだ踏切ということが出来ていないので、3跳とも体は浮かずに失敗してしまう。荒井は結局1m50で15位であった。倉員と小福田は、1m70から試技を開始する。2人とも1跳目でこの高さを成功させる。次の高さは1m75。倉員は1跳目で成功するが、小福田は1跳目は力んで失敗してしまう。2跳目は成功したものの、この試技で膝に違和感を覚え、次の1m80は踏切さえしっかりできず3跳とも失敗してしまう。倉員は惜しい跳躍を見せるも3跳とも失敗。結局倉員は5位、小福田は7位で、この種目は1.5点を獲得した。

今後、荒井はまず陸上の基本的な動作を身につけること、小福田はしっかりと休養をとって膝を治し、それから助走の安定性を身につけることが必要である。倉員は専門種目ではないが点

数を取り、主将としての執念を見せた。

13:20 女子走幅跳 決勝

高山(1年)の出場。午前から引き続き猛暑と照りつける日差しの中で競技が開始された。1人での出場ながら、ランキングは6位で、得点争いが期待される。今シーズンはまだ自己記録に迫るような跳躍は見られないが、本人は今大会の目標を5mとしており、得点が期待される。

1跳目の記録は4m32。周りの選手の記録水準に比べると少し出遅れてしまう。2跳目は4m37と5cm記録を伸ばしたが、ベスト8に残るためには、さらに記録を伸ばすことが要求される。そして3回目、多くの選手が記録を伸ばしてくる中、高山自身もこの日最高となる4m45を記録する。高山の試技が終わった時点で8位に順位を上げ、このままベスト8に残るかと思われたが、試技順最後の選手が記録を伸ばし、惜しくも9位で4跳目以降の試技には進めなかった。

今回は残念な結果に終わったが、バンクが長かったために、まだ走力が戻っていないという課題を高山自身も認識しているので、これからの夏でしっかり鍛えなおし夏以降の対校戦では自己記録を更新し、女子跳躍陣の得点源になってくれることを期待したい。

14:00 女子砲丸投 決勝

宮崎(4年)、楠木(2年)の出場。14時開始という時間帯で、朝からの暑さがより厳しくなった中での試合となった。この時点で女子はまだ2点にとどまっており、何とか1点でも上乘せしたいところであった。

宮崎はこの日まで他の選手とうまく予定を合わせながらリレーの練習と砲丸投の練習を両立してきた。1投目から安定して5m台後半の記録を出し続けたが、6mの壁を越えることはできず、5m89で13位であった。楠木は7月から投擲パートで練習を始めたこと

もあり、自己記録の更新、特に7m突破を目指しての試合となった。1、2投目で7mに迫る記録を連発し、3投目で7m09の自己ベストを出してベスト8に残ったが、後半の3投で記録を伸ばすことができず、結局3投目の記録の7m09で6位に終わった。

両選手とも健闘したが周囲のレベルに及ばず、戦力の向上の必要性を思い知らされる結果となった。

15:00 男子三段跳 決勝

倉員(4年)、武安(3年)、廣瀬(2年)の出場。前年の七大戦では11点を取り、走幅跳に次いで得点を稼いだので、高得点が望まれる種目である。今年は走幅跳で思うように得点が伸びなかったため、この種目での巻き返しが期待された。助走練習の後に風向きに合わせて使用する砂場を変えたため、慌ただしいスタートとなった。

廣瀬は1跳目から徐々に記録を伸ばしていき、3跳目に13m85を跳んだ。しかし、3跳目の時点で8位の選手に惜しくも届かず、9位に終わった。倉員は前半はステップがうまくいかず、いい記録が出なかったが、5跳目にこの日のベストとなる14m31を出した。しかし、6跳目で選手1人に抜かれ、惜しくも得点圏外の7位となった。武安は5跳目まで4位につけていたが、最後の6跳目で14m63を記録し、暫定1位だった選手を1cm差でかわして優勝した。最後の最後で優勝を決め、フィールド最終種目を大いに盛り上げた。武安は連覇を果たし、1人で6点を稼いだ。

昨年は、武安・倉員の2人がそれぞれ1位・2位であったが、昨年よりも他大もレベルアップしており、厳しい戦いであった。その中でも武安は勝負強さを見せることができたが、倉員・廣瀬はそれぞれ7位・9位と際どいところで勝負負けしてしまった。3人とも、この夏を越して更なるレベルアップ

プに期待したい。

15:00 男子ハンマー投 決勝

庄司(4年)、葉梨(3年)、寺島(2年)の出場。この種目を専門にしている庄司、7月に入ってから好調を維持している寺島のダブル入賞も期待された。

庄司は、1投目40m近くまで投げるが、左に切れフェール。2投目は置きに行く投げになり、35m88。その後も崩れたりリズムは戻らず、後半、阪大の選手に次々に抜かれ7位(35m88)だった。葉梨はハンマー投初試合である。1投目、ターンを試みるが、見事に失敗してしまう。そこで、2投目、3投目はスウィング投げをしたところ少しずつ記録を伸ばした。結局、15位(14m51)だった。寺島は前半の3投は33m前後で、最近の調子の良さが感じられない。それでも、ぎりぎり8番手でベスト8に残ると、4投目に35m49を投げ自己記録を更新する。しかし、後半で順位を上げることは出来ず、8位(35m49)となった。

このように、ベスト8に2人も送り込みながら、得点することが出来なかった。なぜ競り負けてしまったか、大いに反省が必要である。

1.5 試合結果

第58回全国七大学対校陸上競技大会

第18回全国七大学対校女子陸上競技大会

於 西京極陸上競技場 (H19.7.29)

男子 100m 決勝 (-2.3)			
1	大崎佑摩	九州大	10.94
2	江馬彰俊	北海道大	10.96
3	田中利幸	九州大	10.98
4	小西克典	大阪大	11.05
5	中山拓哉	名古屋大	11.06
6	青柳光裕	東北大	11.06

7	武田考功	大阪大	11.08
8	藤澤鐘吾	東北大	11.10

男子 100m 予選			
1組 (-1.4)			
5	藤本元太	東京大	11.32
2組 (-1.9)			
6	福田篤	東京大	11.49
3組 (-1.0)			
6	田中啓太	東京大	11.45

男子 200m 決勝 (+2.7)			
1	武田考功	大阪大	21.68
2	久保慶護	京都大	21.70
3	田中利幸	九州大	21.87
4	大崎佑摩	九州大	22.12
5	長谷川正宇	大阪大	22.16
6	八木洋光	東北大	22.19
7	青柳光裕	東北大	22.21
8	江馬彰俊	北海道大	23.26

男子 200m 予選			
1組 (-0.2)			
5	今村岳	東京大	22.77
2組 (+0.7)			
6	柴田渥史	東京大	23.74
3組 (+0.3)			
-	尾崎翔	東京大	DNS

男子 400m 決勝			
1	牧祐輝	名古屋大	49.17
2	岡村健太郎	大阪大	49.75
3	兵頭直弥	東京大	49.93
4	田中裕志	東北大	49.96
5	小林直人	北海道大	50.47
6	相澤祐介	北海道大	50.70
7	瀬川雅博	北海道大	50.89
8	高野陽介	大阪大	51.15

男子 400m 予選			
1組			
1	兵頭直弥	東京大	49.50

2組
5 深澤眞楠 東京大 51.10

3組
4 梶岡利之 東京大 51.54

男子 800m 決勝

1	<u>佐藤翔士</u>	京都大	1.57.84
2	<u>岩田翔也</u>	名古屋大	1.58.91
3	<u>吉岡朋啓</u>	名古屋大	1.58.94
4	<u>前川真彦</u>	京都大	1.59.49
5	<u>斎藤俊</u>	東京大	1.59.62
6	<u>陣内孝輔</u>	大阪大	2.01.25
7	<u>早川慎一</u>	名古屋大	2.02.25
8	<u>田口聖治</u>	九州大	2.11.67

男子 800m 予選

1組			
5	<u>坂井啓一</u>	東京大	2.04.71
2組			
7	<u>野村圭吾</u>	東京大	2.00.42
3組			
2	<u>斎藤俊</u>	東京大	2.00.05

男子 1500m 決勝

1	<u>小山俊之</u>	京都大	3.59.02
2	<u>松本翔</u>	東京大	3.59.79
3	<u>山本哲也</u>	九州大	4.01.45
4	<u>蛭川智史</u>	大阪大	4.01.52
5	<u>斎藤俊</u>	東京大	4.03.12
6	<u>酒井拓馬</u>	名古屋大	4.03.62
7	<u>石原達雄</u>	北海道大	4.03.64
8	<u>久保孝幸</u>	名古屋大	4.05.58
9	<u>石原宏尚</u>	東京大	4.07.22

男子 5000m 決勝

1	<u>松本翔</u>	東京大	15.24.75
2	<u>山 佑太郎</u>	北海道大	15.26.30
3	<u>村西研郎</u>	名古屋大	15.26.90
4	<u>斎藤純</u>	東北大	15.28.77
5	<u>松葉正統</u>	大阪大	15.33.52
6	<u>小林和也</u>	東北大	15.35.18
7	<u>藤永紘基</u>	名古屋大	15.37.95

8	<u>前田達郎</u>	京都大	15.50.10
10	<u>竹俣直道</u>	東京大	15.59.07
17	<u>梶井俊介</u>	東京大	16.14.64

男子 110mH 決勝 (-1.5)

1	<u>宮川寛亮</u>	北海道大	15.05
2	<u>萩澤佑樹</u>	京都大	15.15
3	<u>溝端竜也</u>	大阪大	15.25
4	<u>岩崎辰也</u>	東北大	15.38
5	<u>松野下明弘</u>	九州大	15.38
6	<u>南勇一郎</u>	大阪大	15.41
7	<u>尾崎翔</u>	東京大	15.58
8	<u>福間俊吾</u>	大阪大	15.65

男子 110mH 予選

1組 (-2.3)			
1	<u>尾崎翔</u>	東京大	15.32
2組 (-1.0)			
6	<u>増本健太郎</u>	東京大	17.25
3組 (-1.4)			
4	<u>堀内敦史</u>	東京大	18.97

男子 400mH 決勝

1	<u>宮川寛亮</u>	北海道大	52.85
2	<u>福間俊吾</u>	大阪大	54.00
3	<u>牧祐輝</u>	名古屋大	54.30
4	<u>井上智志</u>	京都大	54.48
5	<u>村上卓</u>	北海道大	55.40
6	<u>柴田智弘</u>	東北大	56.57
7	<u>清原隆志</u>	名古屋大	56.88
8	<u>岡本京祐</u>	京都大	59.19

男子 400mH 予選

1組			
4	<u>酒谷彰一</u>	東京大	57.68
2組			
5	<u>伊勢田明弘</u>	東京大	58.21
3組			
5	<u>門脇啓太</u>	東京大	60.45

男子 3000mSC 決勝

1	<u>石原宏尚</u>	東京大	9.22.89
---	-------------	-----	---------

2	近藤学宏	京都大	9.23.43
3	北村仁	名古屋大	9.27.36
4	木村孝貴	名古屋大	9.34.22
5	松尾直茂	大阪大	9.37.02
6	箭内正輝	東北大	9.38.19
7	宮山和也	北海道大	9.42.11
8	山根裕樹	大阪大	9.42.66
9	月崎竜童	東京大	9.47.90

男子4×100mR 決勝

1	大阪大	41.58
2	九州大	41.59
3	名古屋大	42.09
4	京都大	42.30
5	東北大	42.37
6	北海道大	42.80
7	東京大	42.86

(今村-藤本-福田-都井)

男子4×400mR 決勝

1	大阪大	3.20.12
2	名古屋大	3.20.26
3	九州大	3.20.49
4	東北大	3.20.83
5	東京大	3.21.14

(深澤-梶岡-小澤-兵頭)

6	京都大	3.21.95
7	北海道大	3.22.17

男子走高跳決勝

1	竹内将人	北海道大	1m94
2	藤澤鐘吾	東北大	1m85
3	岡本聖司	東北大	1m80
4	堀内康孝	九州大	1m80
5	熊代哲也	名古屋大	1m75
5	倉員智瑛	東京大	1m75
7	小福田大輔	東京大	1m75
7	吉永光宏	大阪大	1m75
7	三浦裕介	京都大	1m75
15	荒井博樹	東京大	1m55

男子棒高跳決勝

1	松尾頼憲	名古屋大	4m40
2	白井孝明	東北大	4m40
3	大谷真人	東京大	4m20
4	山本剛史	東北大	3m90
5	西川祐示	名古屋大	3m90
6	吉原佑	大阪大	3m70
6	橋本耕太郎	東北大	3m70
8	三浦裕介	京都大	3m70
-	原湖南	東京大	NM
-	木村剛	東京大	NM

男子走幅跳決勝

1	熊代哲也	名古屋大	7m17
2	堀内康孝	北海道大	7m12
3	藤澤鐘吾	東北大	7m09
4	山田博之	名古屋大	7m02
5	武安光太郎	東京大	6m99
6	尾崎翔	東京大	6m84
7	飯田謙	北海道大	6m70
8	谷口康晴	京都大	6m64
9	廣瀬彬	東京大	6m57

男子三段跳決勝

1	武安光太郎	東京大	14m63
2	藤澤鐘吾	東北大	14m62
3	勢力薫	大阪大	14m55
4	長谷川翔平	東北大	14m51
5	吉良佳晃	京都大	14m39
6	小倉英輔	九州大	14m39
7	倉員智瑛	東京大	14m31
8	高橋淳	北海道大	13m89
9	廣瀬彬	東京大	13m86

男子砲丸投決勝

1	今泉卓真	東北大	12m30
2	山村彰紀	名古屋大	11m47
3	萩澤佑樹	京都大	11m41
4	佐藤敬直	東北大	11m34
5	嶋田研志郎	京都大	11m00
6	藤澤鐘吾	東北大	10m99
7	小林宗隆	東京大	10m84
8	溝端竜也	大阪大	10m56

10	<u>北川昂広</u>	東京大	10m37
-	<u>庄司宇</u>	東京大	NM

男子円盤投決勝

1	<u>今泉卓真</u>	東北大	38m45
2	<u>松尾頼憲</u>	名古屋大	36m47
3	<u>藤澤鐘吾</u>	東北大	35m09
4	<u>山村彰紀</u>	名古屋大	33m89
5	<u>吉崎敬祐</u>	京都大	32m90
6	<u>佐藤慎祐</u>	京都大	32m63
7	<u>太田祐輔</u>	大阪大	32m27
8	<u>庄司宇</u>	東京大	30m04
10	<u>小林宗隆</u>	東京大	29m55
11	<u>谷彰一郎</u>	東京大	28m94

男子ハンマー投決勝

1	<u>今泉卓真</u>	東北大	46m38
2	<u>山村彰紀</u>	名古屋大	45m30
3	<u>佐藤敬直</u>	東北大	42m64
4	<u>太田祐輔</u>	大阪大	40m46
5	<u>加山広之</u>	大阪大	36m64
6	<u>池田雄紀</u>	大阪大	36m16
7	<u>庄司宇</u>	東京大	35m88
8	<u>寺島孝明</u>	東京大	35m49
15	<u>葉梨輝</u>	東京大	14m51

男子やり投決勝

1	<u>谷彰一郎</u>	東京大	62m08
2	<u>西川祐示</u>	名古屋大	57m04
3	<u>橋田金重</u>	北海道大	56m03
4	<u>佐藤慎祐</u>	京都大	53m21
5	<u>山本貴之</u>	京都大	52m91
6	<u>北川昂広</u>	東京大	51m34
7	<u>落合裕規</u>	東北大	49m05
8	<u>関原孝之</u>	東京大	48m69

男子トラック順位

1	大阪大	46
2	名古屋大	42
3	京都大	37
4	九州大	32
5	北海道大	28

6	東京大	27
7	東北大	19

男子フィールド順位

1	東北大	59.5
2	名古屋大	41.5
3	東京大	21.5
4	京都大	16
5	大阪大	10.5
6	北海道大	10
7	九州大	9

男子総合順位

1	名古屋大	83.5
2	東北大	78.5
3	大阪大	56.5
4	京都大	53
5	東京大	48.5
6	九州大	41
7	北海道大	38

女子100m 決勝 (+2.0)

1	<u>安田理香</u>	名古屋大	12.35(NGR)
2	<u>沼田亜侑美</u>	北海道大	12.68
3	<u>脇坂美穂子</u>	東北大	13.04
4	<u>柳原南欧美</u>	名古屋大	13.19
5	<u>富田夏希</u>	京都大	13.22
6	<u>清水蘭</u>	東京大	13.25
7	<u>キミロバエレナ</u>	東北大	13.40
8	<u>早瀬紗也佳</u>	京都大	13.41

女子100m 予選

1組 (-0.7)			
5	<u>清水蘭</u>	東京大	13.68
2組 (-2.2)			
4	<u>大久保渥子</u>	東京大	14.17

女子400m 決勝

1	<u>只野奏子</u>	北海道大	58.36
2	<u>金尾明日美</u>	名古屋大	59.47
3	<u>柳原南欧美</u>	名古屋大	61.93
4	<u>脇坂美穂子</u>	東北大	62.02

5	キミロバエレナ	東北大	63.18
6	板倉未来	北海道大	64.79
7	片山裕美子	京都大	70.47
-	今本奈津美	大阪大	DNS

女子 400m 予選

1組			
-	日下桃子	東京大	DNS
2組			
-	清水蘭	東京大	DNS

女子 800m 決勝

1	只野奏子	北海道大	2.16.82
2	安川裕子	名古屋大	2.19.21
3	日下桃子	東京大	2.21.29
4	二宮暢子	北海道大	2.23.40
5	小山倫代	名古屋大	2.23.53
6	三木香	大阪大	2.24.49
7	池田絵里	東北大	2.28.89
8	青山えりか	九州大	2.29.27

女子 3000m 決勝

1	小山倫代	名古屋大	10.11.03
2	村野友香梨	九州大	10.17.82
3	山本しおり	名古屋大	10.28.08
4	永井瑞希	東北大	10.40.85
5	立元優美	九州大	10.51.30
6	小海麻美	東北大	10.58.10
7	日下桃子	東京大	11.16.47
8	大山久美子	大阪大	11.34.38

女子 4 × 100mR 決勝

1	名古屋大	50.08
2	北海道大	50.85
3	東北大	52.20
4	京都大	53.23
5	東京大	53.50
(大久保-清水-宮崎-高山)		
6	大阪大	53.87
7	九州大	61.85

女子走高跳決勝

1	湯澤明夏	北海道大	1m46
2	河合春菜	京都大	1m40
3	柳原南欧美	名古屋大	1m35
3	安田里香	名古屋大	1m35
3	田中萌子	大阪大	1m35
6	菊地亜加里	東北大	1m35
7	杉本友香	大阪大	1m35
8	片山裕美子	京都大	1m30
8	金巻あゆか	北海道大	1m30

女子走幅跳決勝

1	沼田亜侑美	北海道大	5m27
2	安田理香	名古屋大	4m94
3	早瀬紗也佳	京都大	4m85
4	富田夏希	京都大	4m83
5	菊地亜加里	東北大	4m83
6	湯澤明夏	北海道大	4m80
7	吉川泰代	大阪大	4m57
8	星朝香	東北大	4m49
9	高山花子	東京大	4m45
-	大久保渥子	東京大	DNS

女子砲丸投決勝

1	青山聡子	九州大	9m94
2	早瀬紗也佳	京都大	8m40
3	菊地亜加里	東北大	8m32
4	平島幸	北海道大	7m89
5	安田理香	名古屋大	7m52
6	楠木千尋	東京大	7m09
7	板倉未来	北海道大	6m82
8	天野実咲	名古屋大	6m57
13	宮崎彩	東京大	5m89

女子トラック順位

1	名古屋大	23
2	北海道大	15
3	東北大	6
4	九州大	3
5	東京大	2
6	京都大	1
7	大阪大	0

女子フィールド順位		
1	北海道大	9
2	京都大	9
3	名古屋大	5
4	九州大	4
5	東北大	2
6	大阪大	1
7	東京大	0

女子総合順位		
1	名古屋大	28
2	北海道大	24
3	京都大	10
4	東北大	8
5	九州大	7
6	東京大	2
7	大阪大	1

2 2007年度部内5傑 2007.7.29現在

男子 100m

1	渡辺 裕太 (2年)	11"01(+1.5)	4.22
2	藤本 元太 (4年)	11"04(+1.0)	7.15
3	今村 岳 (4年)	11"22(+1.9)	5.4
4	都井 紘 (2年)	11"25(-0.3)	5.26
5	福田 篤 (3年)	11"28(+1.4)	5.4

男子 200m

1	今村 岳 (4年)	22"52(+1.0)	5.26
2	渡辺 裕太 (2年)	22"55(-0.2)	5.12
3	福田 篤 (3年)	22"93(+0.3)	7.7
4	都井 紘 (2年)	23"33(±0.0)	7.28
5	柴田 渥史 (2年)	23"68(-0.5)	5.26

男子 400m

1	兵頭 直弥 (1年)	49"50	7.29
2	深澤 眞楠 (3年)	50"66	5.3
3	梶岡 利之 (3年)	51"09	4.29
4	今村 岳 (4年)	51"28	5.3
5	小澤 聡 (4年)	51"6	5.26

男子 800m

1	斉藤 俊 (4年)	1'56"82	4.29
2	野村 圭吾 (2年)	1'57"75	4.14
3	坂井 啓一 (2年)	1'59"59	7.7
4	小澤 聡 (4年)	2'01"57	4.29
5	渡邊 拓也 (1年)	2'02"58	5.26

男子 1500m

1	石原 宏尚 (4年)	3'58"70	4.29
2	松本 翔 (4年)	3'59"79	7.29
3	斉藤 俊 (4年)	4'03"12	7.29
4	月崎 竜童 (4年)	4'03"95	4.14
5	野村 圭吾 (2年)	4'06"67	4.29

男子 5000m

1	松本 翔 (4年)	14'30"18	6.24
2	齋藤 俊 (4年)	15'29"82	6.24
3	梶井 駿介 (3年)	15'32"04	6.24
4	竹俣 直道 (1年)	15'53"24	7.7
5	山田 健太郎 (2年)	15'54"50	6.24

男子 10000m

1	松本 翔 (4年)	29'54"51	5.19
---	-----------	----------	------

男子 110mH

1	尾崎 翔 (3年)	15"32(-2.3)	7.29
2	酒谷 彰一 (1年)	16"39(±0.0)	7.7
3	持永 新 (5年)	17"16(-0.6)	5.13
4	増本 健太郎 (1年)	17"25(-1.0)	7.29
5	江間 輝裕 (1年)	18"15(+0.5)	5.26

男子 400mH

1	伊勢田 明弘 (5年)	56"75	5.4
2	酒谷 彰一 (1年)	57"68	7.29
3	江間 輝裕 (1年)	59"49	6.17
4	門脇 啓太 (3年)	59"60	7.7
5	片島 拓弥 (2年)	59"97	4.14

男子 3000mSC

1	石原 宏尚 (4年)	9'22"89	7.29
2	月崎 竜童 (4年)	9'47"90	7.29
3	山本 祥 (4年)	10'33"53	6.16
4	松永 将幸 (3年)	10'41"34	7.7

男子 10000mW

1	和田 光一郎 (3年)	48'28"97	5.18
2	菅野 雄大 (4年)	48'54"44	4.15
3	北沢 太郎 (3年)	50'53"82	5.18

男子 走幅跳

1	尾崎 翔 (3年)	7m34	4.14
2	武安 光太郎 (3年)	7m18	5.4
3	廣瀬 彬 (2年)	6m71	5.4
4	西田 昴広 (1年)	6m47	7.7
5	倉員 智瑛 (4年)	6m38	7.7

男子 三段跳

1	武安 光太郎 (3年)	14m56	5.18
2	倉員 智瑛 (4年)	14m40	4.14
3	廣瀬 彬 (2年)	14m02	5.4
4	大谷 真人 (3年)	12m95	5.26

男子 走高跳

1	小福田 大輔 (3年)	1m80	7.7
2	倉員 智瑛 (4年)	1m75	7.29
2	持永 新 (5年)	1m75	4.14
4	地子 智浩 (2年)	1m60	5.26
5	荒井 博貴 (2年)	1m50	7.7

男子 棒高跳

1	大谷 真人 (3年)	4m20	5.19
2	持永 新 (5年)	3m60	5.13
3	木村 剛 (4年)	3m40	4.14
4	関原 孝之 (4年)	3m00	5.26

男子 砲丸投

1	北川 昴広 (3年)	11m07	5.26
2	小林 宗隆 (4年)	10m84	7.29
3	持永 新 (5年)	10m32	5.26
4	寺島 孝明 (2年)	7m88	5.26

男子 円盤投

1	小林 宗隆 (4年)	31m22	4.14
2	庄司 宇 (4年)	31m13	4.14
3	持永 新 (5年)	30m25	7.7
4	谷 彰一郎 (2年)	28m94	7.29

男子 ハンマー投

1	庄司 宇 (4年)	38m15	5.4
2	寺島 孝明 (2年)	35m49	7.29
3	葉梨 輝 (3年)	14m51	7.29

男子 やり投

1	谷 彰一郎 (2年)	62m08	7.29
2	北川 昴広 (3年)	51m34	7.29
3	関原 孝之 (4年)	50m17	5.3
4	葉梨 輝 (3年)	45m14	5.26
5	千葉 伸宏 (1年)	44m85	7.28

男子 十種競技

1	持永 新 (4年)	5682点	5.12-13
---	-----------	-------	---------

女子 100m

1	清水 蘭 (2年)	13"25(+2.0)	7.29
2	大久保 渥子 (2年)	13"78(+0.5)	7.7

女子 200m

1	清水 蘭 (2年)	28"21(+1.3)	6.17
---	-----------	-------------	------

女子 400m

1	日下 桃子 (2年)	61"92	5.26
---	------------	-------	------

女子 800m

1	日下 桃子 (2年)	2'19"87	4.29
---	------------	---------	------

女子 3000m

1	日下 桃子 (2年)	11'16"74	7.29
---	------------	----------	------

女子 棒高跳

1	宮崎 彩 (4年)	1m70	4.14
---	-----------	------	------

女子 走幅跳

1	高山 花子 (1年)	4m89	5.26
---	------------	------	------

女子 砲丸投

1	楠木 千尋 (2年)	7m09	7.29
2	宮崎 彩 (4年)	5m89	7.29

女子 やり投

1	楠木 千尋 (2年)	21m76	7.7
2	大久保 渥子 (2年)	15m70	5.26

3 自己記録更新者一覧 2007.7.8~7.29

7/15 兵庫県選手権 (ユニバー記念競技場)

100m 藤本元太 (4年) 11"04(+1.0)

7/28(OP),29(本戦) 七大戦 (西京極)

100m	都井紘 (2年)	11"25(-0.3)
100m	清水蘭 (2年)	13"25(+2.0)
400m	近藤堯之 (1年)	55"68
400m	渡邊拓也 (1年)	53"26
400m	北岡祐 (M1)	50"86
1500m	庄司健太 (1年)	4'32"95
1500m	須田遊人 (2年)	4'24"69
1500m	西川鋭 (2年)	4'32"58
1500m	斎藤甲次朗 (3年)	4'31"05
1500m	山本祥 (4年)	4'18"99
3000mSC	月崎竜童 (4年)	9'47"90
砲丸投	小林宗隆 (4年)	10m84
砲丸投	楠木千尋 (2年)	7m09
円盤投	谷彰一朗 (2年)	28m90
ハンマー投	葉梨輝 (3年)	14m51
やり投	千葉伸宏 (1年)	44m85
やり投	谷彰一朗 (2年)	62m08

4 主務より

4.1 応援OB・OG紹介

7月29日(日)、西京極競技場(京都)にて行われました七大戦に際し、応援に駆けつけて下さったOB、OGの皆様のご氏名を報告いたします。

(敬称略)

1958年卒 浦野穩昌
 1960年卒 笹治峻
 1963年卒 井上尚男
 1968年卒 小林寛道
 1968年卒 湯浅味代士
 1969年卒 森茂雄
 1976年卒 田上静之
 1979年卒 中谷敬二
 1983年卒 小林徹
 1983年卒 八田秀雄
 1993年卒 桜井亮太
 1994年卒 朝日雄治
 1994年卒 工藤麻衣子

2001年卒 岡野浩行
 2001年卒 新妻拓弥
 2003年卒 橋本武
 2004年卒 相原佑康
 2005年卒 藤田靖浩
 2006年卒 中原健二
 2006年卒 吉田和敬
 2007年卒 岡田良平
 2007年卒 小原明恵
 2007年卒 河本和美
 2007年卒 黒澤徹也
 2007年卒 坂田祐輔
 2007年卒 竹内昌男
 2007年卒 三好信哉
 2007年卒 向田恵

皆様の温かいご声援のもと、現役部員一同、大会終了までどうにか戦い抜くことができました。ご多忙のところ、また厳しい暑さの中、お越し下さいましたことに心よりお礼申し上げます。

4.2 行事予定

7月28日に行われました、七大戦 OBOG 交歓会にお越し下さいました皆様に、厚くお礼申し上げます。また、本年度京大戦では、開催80回を記念した懇親会が予定されておりますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。今後の行事予定をお知らせいたします。

- 一橋戦
9/8(土) 町田
- 京大戦(当校主幹、80回記念行事を予定)
10/7(日) 駒場
- 箱根駅伝予選会
10/20(土) 立川
- 第5回東大競技会
10月下旬 駒場
- OBゴルフコンペ
11/11(日) 季美の森(予定)

4.3 連絡先 (慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之

学生主務:山本卓典

主務 山本 卓典

文責：今村 岳